

埼玉県立文書館における普及事業

— 子供体験事業を中心に —

前田 芳江

はじめに

第282回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（以下、全史料協）関東部会の定例研究会が平成27年9月18日に戸田市立図書館・郷土博物館で開催され、筆者は「埼玉県立文書館における普及事業—子供体験事業を中心に—」と題して報告をさせていただいた。

本稿では、研究会当日の報告を基に当館の子供体験事業について概略を述べる。

なお本稿は、平成27年度全史料協関東部会会報「アーキビスト」第85号に於いて寄稿したものに加筆したものである。

1 子供体験事業のはじまり

当館の子供体験事業は、講座・講習会の開催、収蔵文書展の開催、学校連携と共に普及事業の一つとして位置付けられている。

その目的は以下の2点である。

- ①子供たちに、様々な体験をとおして文書館について知ってもらい、将来の利用者としての育成を図る。
- ②地域のボランティアの方々に運営に携わっていただくことで、地域文化の保護や活用についての理解を図る。

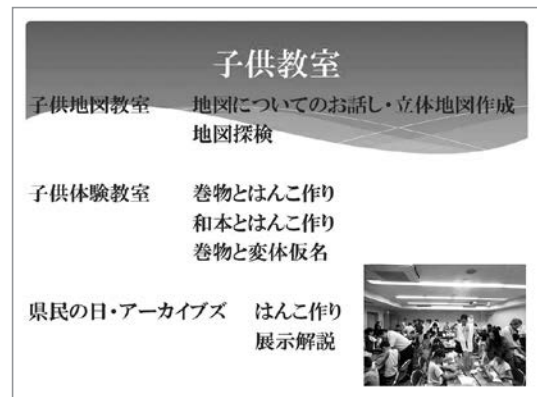
子供体験事業は、平成14年度に「土曜おもしろ博物館」として開始された。

平成15年度からは「わくわくサタデーミュージアム」として、県立博物館施設と共に学校週5日制に対応した土曜日の体験事業として実施されるようになり、翌年度からは、徐々に夏休みを利用した子供教室に移行され現在に至る。

2 子供教室について

子供教室は、大きく分けて「子供地図教室／子供体験教室／県民の日・アーカイブズ」の3つの教室に分類される。さらに子供地図教室は、「地図についてのお話・立体地図作り／地図探検」の2教室、子供体験教室は、「巻物とはんこ作り／和本とはんこ作り／巻物と変体仮名の読み書き」の3教室がある。

また、県民の日・もんじょ館でアーカイブズは小学校1年生以上を対象に（先着150人）無料ではんこ作りと展示解説を行っている（報告資料1）。

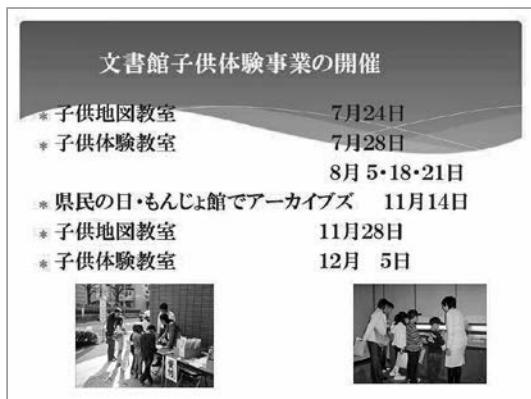


報告資料1 子供教室の種類

年間の開催日程は、報告資料2のとおりであるが、

- 7月24日の子供地図教室：2コマ
- 7月28日、8月5日の子供体験教室：1日2コマずつ4コマ
- 8月18日、21日の子供体験教室：1日1コマずつ2コマ
- 11月14日の県民の日・アーカイブズ：1コマ
- 11月28日の子供地図教室：1コマ
- 12月5日の子供体験教室：1日2コマ

以上、年間で合計12コマの子供教室を実施している。

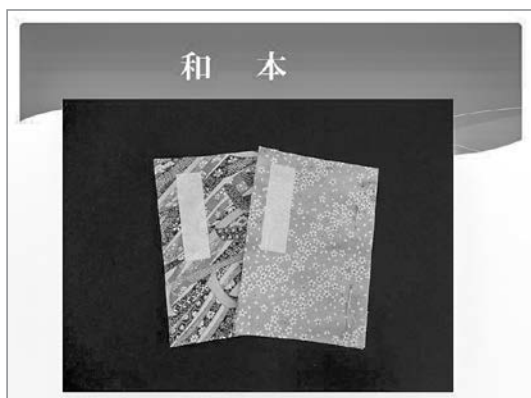


報告資料2 子供教室の種類

各教室の定員は36人で(地図探検は20人、県民の日アーカイブズは150人) 年間546人の受講者を受け入れる大変人気の高い事業である。

【作成しているもの】

子供教室で実際に子供たちが作成しているものは、以下のとおりである(報告資料3)。



報告資料3 子供教室の種類

変体仮名の読み書き体験では、「どらえもん」や「ぴかちゅう」などの言葉を読み取るワークシートも取り入れている。

また、「10年後の手紙」は、子供体験教室の際、希望する子供に書いてもらっているものである。これは、アーカイブズ機能としての文書館の役割を理解してもらうための取組でもある。平成20年度から開始され、参加した年から10年後に直接文書館に取りに来てもらう仕組みになっている。

平成30年度からは返却が開始される予定だが、今後、それに向けて、要綱を作成するなどの体制作りをしていかなければならない。

【子供教室の様子】

以下は、実際の子供教室の様子である。
(報告資料4)



報告資料 4 子供教室の様子

子供地図教室では、国土地理院から山根清一先生を講師に迎え、地図の種類や地図記号について学習する。その後、埼玉県の立体地図を作成する。秋の地図探検では、実際に地図を持ち、文書館周辺を探検する。これは、昨年度まで夏季に実施されていたが、猛暑の影響で今年度から秋に移行した。

子供体験教室では、巻物、和本、はんこ作りの他に保存庫の見学も行っている。保存庫では、実際に子供たちが作る和本や巻物に触れたり、絵図や行政文書、地図の保存の様子を見たりする。また、前述でも触れたが、最も文書館らしい取組が変体仮名の読み書き体験である。講義では、生活の中にある変体仮名を使って教材を作ったり、「いろは覚え」の原本に実際に触れさせたりすることで、一見難しい内容も子供向けに工夫するようにしている。また、最後には、半紙に筆ペンで習った変体仮名を使って自分の名前を書かせることもしている。中には、最後にとるアンケートに変体仮名で感想を書く子供もいて、担当者を喜ばせている。

県民の日・もんじょ館でアーカイブズでは、県庁のイベントに合わせて文書館でも1日イベントを行っている。前述のとおり、展示解説と無料ではんこ作り（先着150人小学1年生以上）を行っているため、全職員で対応している。

【子供体験事業担当について】

子供体験事業は、各担当（古文書担当、公文書担当、史料編さん担当、地図センター担当）からそれぞれ1～4人ずつ選出され、5人の担当者と4人の担当者補助の合計9人で担当している横断的な事業である。各担当の仕事をしながらの業務の為、仕事量はおのずと多くなり、これが子供体験事業の課題の一つにもなっている。以下、子供体験事業担当者の年間スケジュール（報告資料5）をとおして、その仕事内容を紹介する。

文書館子供体験事業年間スケジュール

時期	子供事業の予定	主な館の行事
4月 中旬～ 下旬	子供体験事業担当者打ち合わせ 子供体験事業開催起家 子供体験教室・子供地図教室開催起家 子供体験事業の広報起家 子供体験事業ボランティア募集起家	
5月 月上旬	子供体験事業ボランティア募集チラシ印刷	
中旬	子供事業ボランティア募集チラシ配布 →ボランティア募集受付（6/1～6/26）	5/11～15 特別整理全体研修
下旬	運営会議で子供事業についてお願い 子供事業配布用チラシ原案完成 材料の数量等点検	5/ 運営会議 5/ 21・28・6/4 古文書講座（入門編） 5/ 埼玉史協会議食
6月 月上旬	子供事業配布用チラシ印刷（約30,000枚） 不足材料購入ードイトで購入	展示準備期間
中旬	さいたま市教委の場で近隣小学校43校にチラシ配布 子供事業担当打ち合わせ 一問一合わせへの対応（受付期間、申込み方法等）	6/11 古文書講座（初級編） 6/13 古文書講座（初級編）
下旬	材料準備、作製 職員日程調整（前期分）→決定	6/18 古文書講座（初級編） 6/20 古文書講座（初級編） 6/25 古文書講座（初級編） 6/27 古文書講座（初級編）
7月 月上旬	7/1 彩の国だよりに子供事業募集掲載予定 →受付（6/30～7/6 消印有効） 7/8～9 受講者決定起家 7/10 受講者・辞退者へ通知	7/1～7/8 博物館実習 →実習中に子供事業体験、材料準備 作業製作
中旬	*欠員があった場合に追加募集 *キャンセルがあった場合に繰上当選→決定通知 7/14（火）ボランティア説明会	7/ 全体会議 7/ 9・10 埼玉史協会議食
下旬	7/17（金）袋詰め作業 ※前日準備、実施後片付け 7/23（木）前日準備（アーカイブズカレッジのため、 時間外の予定） 7/24（金）子供地図教室 7/27（月）前日準備 7/28（火）子供体験教室	7/ 運営会議 7/23 トピックズ 受入
8月 月上旬	8/4（火）前日準備 8/5（水）子供体験教室	
中旬～ 下旬	8/17（月）前日準備 8/18（火）子供体験教室 8/20（木）前日準備 8/21（金）子供体験教室 ※事後アンケート集計、実施報告、十年後の手紙名簿 入力	8/27・28 古文書解説講座
9月～	9月上旬 子供地図教室探検コース下見 【地図センター担当】 9月上旬 子供体験教室・子供地図教室（下半期）の実施 起家 // 子供体験教室（下半期）のチラシ起家 // もんじょ館でアーカイブズ開催起家 9/ 子供事業配布用チラシ印刷（約17,000枚） 10/26（月）さいたま市教委の場で近隣小学校23校にチ ラシ配布 一問一合わせへの対応（受付期間、申込み方法等） →受付（11/2～11/9 消印有効） 11/11～12 受講者決定起家 11/13 受講者・辞退者へ通知	10/ 特別整理全体研修 10/24 地図教室 10/28 古文書講座（中級編） 11/4 古文書講座（中級編） 11/18 古文書講座（中級編）
12月	11/13（金）前日準備 11/14（土）県民の日もんじょ館でアーカイブズ 11/18 子供地図教室探検コース下見【子供事業担当】 11/27（金）前日準備 11/28（土）子供地図教室 12/4（金）前日準備 12/5（土）子供体験教室 ※事後アンケート集計、実施報告、十年後の手紙名簿 入力	

報告資料5 子供体験事業年間スケジュール

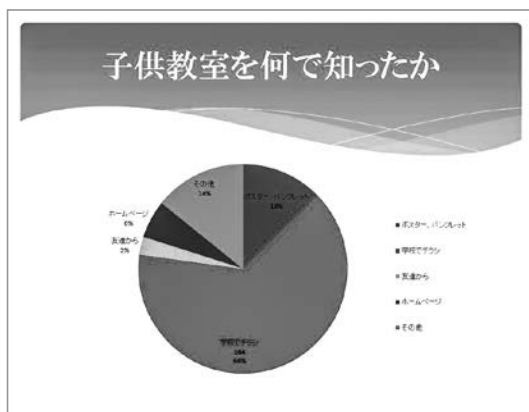
まず、4月中旬に 担当者の打ち合わせを行い、事業の内容・流れ・分担の確認等をする。その後、子供事業上半期開催起案、広報起案、ボランティア募集起案を行う。

5月上旬には、ボランティア募集チラシ(約700枚)を印刷し、中旬には県内の高等学校、大学等に配布する。5月下旬には、材料の点検を行い、不足分を作成する。材料については、前年度から担当者が作成するが、学芸員実習やボランティア説明会の際にも材料作成を計画的に行っている。6月上旬には上半期の子供教室のチラシ(約3万枚)を印刷し、下旬にさいたま市内の各小学校(約40校)に配布する(報告資料6)。



報告資料 6 子供教室チラシ

このチラシの効果については、アンケート結果からもわかるが、参加者の77%が「ポスターパンフレット、チラシを見て教室について知った」と回答している(報告資料7)。学校に配布していることも確実に家庭に届くということで効果が高いのであろう。



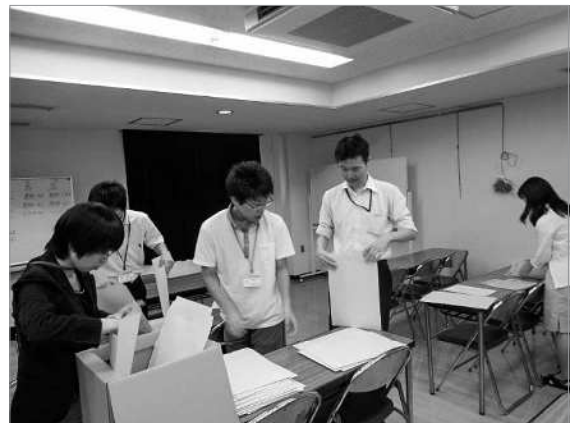
報告資料 7 子供教室を何で知ったか

6月中旬には、再び担当者の打ち合わせを行う。これは、子供教室の募集に向けて、すべての教室において問い合わせ、抽選の方法、受講証の発送などで同じ対応ができるよう、共通理解を図る必要があるからである。

6月下旬には、子供教室開催日の全職員の分担調整を行う。子供事業は、館を挙げて、全職員の協力がなくては成り立たない事業である。

7月上旬に募集が始まり、受講者決定後、受講証を発送する。7月中旬には、ボランティア説明会を行う(詳細は後述)。更に、上半期8教室288人分の材料の袋詰めを担当者で行う(報告資料8)。

開催日の前日に会場準備をし、終了後は片づけ、アンケート集計、事業報告を行う。



報告資料 8 教材の袋詰め作業

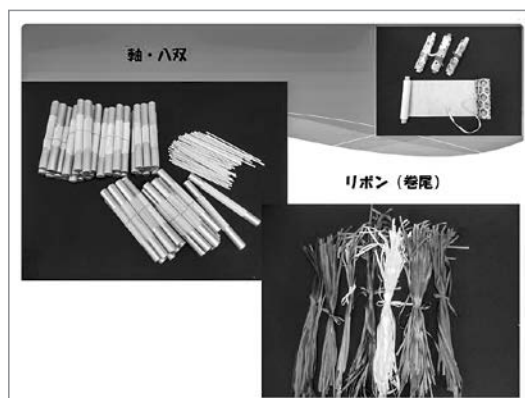
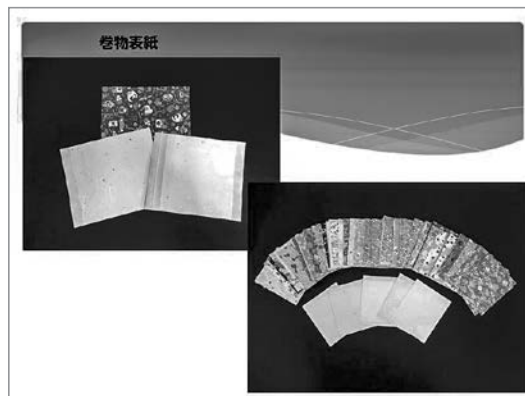
下半期も同様の内容で準備を進めていくが、下半期の子供地図教室は、地図探検が含まれているため、地図センター担当は、9月上旬にコースの下見を行い、探検コースを決定する。更に、子供事業担当者全員での下見や子供地図教室を担当する他の職員との打合せも行う。これは、より安全に活動を行うことができるようにするためである。

12月以降は次年度に向けて、各々の担当の仕事の合間を縫い、材料作りを行っている。上半期と同様、中学生の職場体験の計画にも材料作りを組み入れ、計画的に行っている。

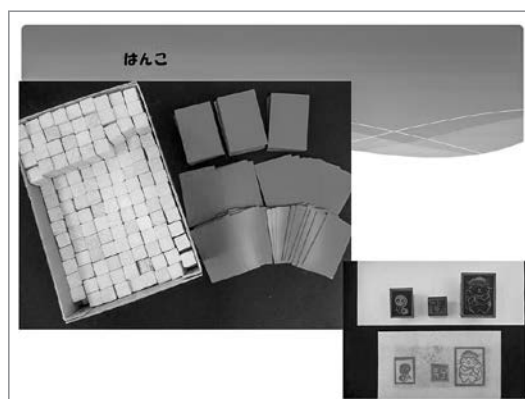
材料については、報告資料9の子供教室材料点検一覧を参照。

子供体験事業 材料等

材料名	現有効	必要数	あと.....
埼玉県立地図		100セット	
はんこ 小		310個	
はんこ 大		80個	
ゴム板		390個	
トレーシング		390枚	
和紙（はんこ試し）		380枚	
和本（表紙・裏表紙）		320枚	
和本（中 10枚1組）		160組	
和本（綴じ紐 3本1組）		160組	
和本（題せん）		160枚	
和本（銀れい紙）		160枚	
巻物（表紙）		160枚	
巻物（中 5枚1組）		160組	
巻物（軸）		160本	
巻物（リボン）		160本	
巻物（題せん）		160枚	
巻物（竹ひご）		160本	
マニュアル		790セット	

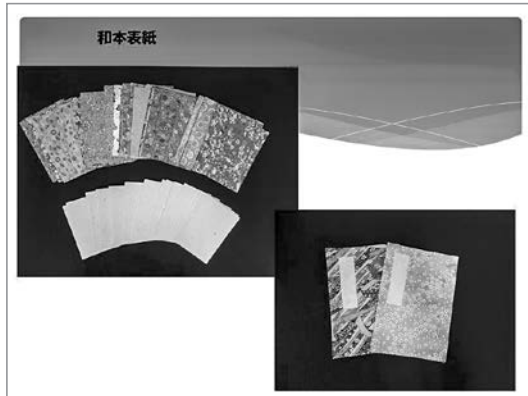


巻物材料



はんこ材料

報告資料9 子供教室材料点検一覧



和本材料



誰でも材料や道具の出し入れができるよう、ラベルを貼り整えられた準備室

【子供体験事業ボランティアについて】

子供体験事業の目的の一つに「地域のボランティアの方々に運営に携わっていただくことで、地域文化の保護や活用についての理解を図る」とあるが、子供事業において、ボランティアは欠かせない存在である。毎年、県内の高等学校、大学約20校にボランティア募集のチラシを配布している（web登録1校、埼玉県社会福祉協議会へもweb登録）。

また、前年度のボランティア登録者へも個別で郵送している。今年度の登録者は14人＋学芸員実習生としてのボランティア参加者5人、全員で19人の登録があった。7月中旬に行われるボランティア説明会では、活動の概要を説明した後、実際に和本作りをして

らう。これは、子供の作業中に適切なアドバイスや補助ができるようにするためである。その後、材料作りにも協力していただく（報告資料10）。年度末には、礼状と共に参加証を郵送している。



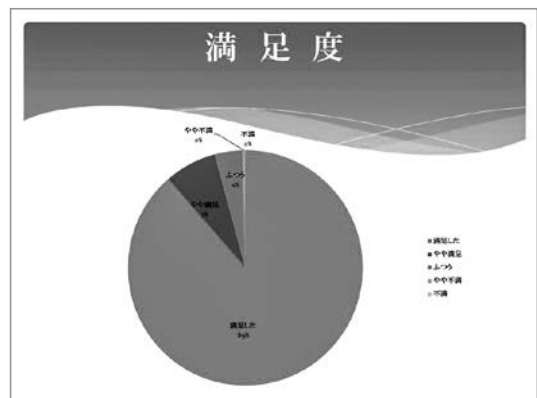
報告資料 10 ボランティア説明会

4 成果と課題

子供体験事業の成果については、アンケート結果をもとに簡単に述べる。

まず、文書館来館数については、初めて文書館を利用した子供が75%、リピーターが25%である。博物館や図書館と比較すると認知度は決して高くない文書館であるが、4人に1人がリピーターということは、文書館の認知度としては高いのではないだろうか。

また、満足度に関しては、下記のとおり「参加して満足した、またはやや満足した」と回答した子供が96%と非常に高い満足度を示している（報告資料11）。



報告資料 11 アンケートによる満足度

さらに、子供たちの感想についても紹介する。

・私は自由研究に「和本と洋本のちがいは」というのをやるのですが、昔の本の管理方法や和本の作り方をよく学びました。今はクリップ、目打ち、厚紙などがありますが、昔はどのようなものを使って作っていたのか知りたいと思いました。

〈和本とはんこ作りに参加〉

・（変体仮名で感想を書いている）変体仮名を学んで昔の人は大変だなと感じた。

〈巻物と変体仮名の読み書きに参加〉

・秘密の部屋で昔の本がいっぱいあって、赤いラッパのところから火事のためのガスがふき出すことを知って面白かったし、とても楽しかったです。

〈巻物とはんこ作りに参加 保存庫見学への感想〉

以上の事から、子供教室に参加した子供たちは概ね満足していると言える。これらは、これまでの子供体験事業の成果と言えよう。また、小学生の時に子供教室に参加した経験のある大学生が、昨年度からボランティアに参加してくれていることも喜ばしいことである。

今後の課題としては、以下の2点を挙げる。

- ①現状を維持するための時間と労力をいかに確保するか。
- ②本当の意味での将来の利用者育成になっているか。

現状を維持するための具体的事項としては、材料の作成、職員やボランティアの人員の確保と連絡調整、広報の工夫、さらにこれらのノウハウをどのように後任に伝えるかなどが挙げられる。また、子供事業担当者のチームワークと職員、ボランティアの協力なしでは、

前述のような成果は得られない。

この課題を解決し、体験教室に参加した子供たちを、物を作って満足して終わるのではなく、本当の意味での利用者として育成していくことが今後の課題である。